

「もてなしの心」息づくまち板橋

中山道の主たる宿場町

「板橋宿」

板橋区は、東京23区に属し、東
京区部の北西に位置している。地
名としての「板橋」は、『延慶本平



江戸時代の板橋

家物語』に確認され、当書が成立
した13世紀末ごろには成立してい
たことが分かる。

17世紀初頭、江戸に幕府が開
かれると、日本橋を基点として
五街道が整備された。本区の東
部には、古代の東山道に淵源を
もち、日本の東西を結んでいる大
動脈「中山道」が走り、第一番目の
宿場町として板橋宿が置かれた。
そして、石神井川が中山道の道筋
を横断する場所には、長さ9間
(16・2m)、幅3間(5・4m)の
太鼓橋が架けられ、これを「板橋」
と称し、宿場の象徴となってい
た。また、板橋宿の平尾追分で中
山道は分岐し、川越に至るその道
は、脇往還「川越街道」として整備
された。

『江戸名所図会』に記された19世

板橋区長(東京都)

坂本

健



もに、髪結い・湯屋・研屋などの
職人が営業していた。

現在、かつての宿場町は商店街
に姿を変え、にぎわいを見せる
中、周辺には多くの名所・史跡が
残されており、誰もが歴史の面影
にふれることができる。「板橋」の

紀の板橋宿は、「中仙道の首にし
て日本橋より二里あり、往来の行
客常に絡繹たり、東海道は川々の
差支多しとて、近世は諸侯を初め
往来繁ければ、傳舎酒舗軒端を連
ね繁昌の地たり」と記され、東海
道を補完する中山道の「主」たる宿
場として大いににぎわっていた。
板橋宿はまた、東海道の品川
宿、日光・奥州道中の千住宿、甲
州道中の内藤新宿とともに、「江
戸四宿」と総称されていた。
江戸四宿は、大都市江戸の周縁
部に位置し、江戸を出入りする人
びとが行き交う場、「玄関口」で
あった。また、旅人を知人が出迎
える「サカムカエ」の場としても機
能していた。その休息の場とし
て、茶屋や餅菓子屋、蕎麦屋や酒
屋などの飲食店が利用されると



現在の板橋

下を流れる石神井川の両岸には、昭和9年以降に約千本の桜の木が植えられ、春になると区内を代表する桜の名所となっている。

加賀藩江戸下屋敷と近代史跡

板橋宿に面しては、延宝7年(1679年)に加賀藩前田家の江戸下屋敷平尾邸が置かれた。当屋敷は藩主家族の別荘として機能し、約21万8000坪を数える江戸最大の大名屋敷であった。同地域には現在も、地名をはじめ学校や橋の名称に「加賀」や「金沢」といった名が残っており、区民にも親しまれている。

明治になると、収公された屋敷に、官営の「陸軍板橋火薬製造所」が建設され、火薬の研究・製造が行われ、板橋区のものづくりの中心地となった。終戦後は陸軍解体に伴い、広大な敷地に公益財団野口研究所や、理化学研究所の板橋分室といった研究施設が入り、ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹、朝永振一郎両博士をはじめ、多くの研究者がこの地で研究に従事した。

このような歴史から、同地は区

産業発祥の地として、平成29年度にその一部が国の史跡に指定されており、今後、近代化・産業遺産を保存・活用した「史跡公園」として整備を予定している。また、同地はぐくみ、歴史とともに派生したヒト・モノ・技術は、23区でトップクラスの製造品出荷額を誇る現在の区産業の礎となっている。

未来をはぐくむ

緑と文化のかがやくまち 板橋

このような歴史を背景に発展を遂げてきた当区には、現在も街道を行き交う旅人への「もてなしの心」が脈々と受け継がれている。また、古くから蓄積された人の知



史跡公園のイメージ

恵と技術、そして文化。それは長い時間をかけて語り継がれ、今も暮らしの中に生き続けている。これらを尊重していくとともに、時代の変化を見据え新たな価値を付加し、未来を創造していくことが、区民の暮らしが充実し、豊かであることを共感できるまちへとつながっていく。

「暮らしやすいまち」「住み続け

たいまち」に住民は愛着を感じる。さらに、「訪れたいまち」「選ばれるまち」は、住んでいる人が自分たちのまちに誇りを持つているまちである。だれもが愛着と誇りを共感できるまちを実現し、「東京で一番住みたくなるまち」と評価されるまちとなるよう、もてなしの心によるまちづくりに取り組んでいく。

一口メモ

「江戸四宿」のひとつ 板橋宿

板橋宿は、平尾宿(下宿)、中宿(仲宿)、上宿の3区域から成って

いた。江戸の出入口に位置し、勤交代の武家はこちらから各屋敷へと向かった。また、「板橋・雪の別れ」は、蘭学者の渡辺華山が14歳の時に、養子になる弟を見送った物語で、出迎えや別れを惜しむ場所でもあった。



「志村一里塚」は、日本橋から3番目の一里塚で、大正11年(1922年)に国の史跡に指定。当時の姿を残している貴重なものである。

企画協力…全国街道交流会議「街道交流首長会」